

閑人歌話 (八)

島田忠夫

○作歌種々

正岡子規は、作歌する時頭の中であらゆるものを書いた。書いてから、一言一句も訂正しなかつたといふ。

伊藤左千夫は、作歌(課題の時といふ)する爲め、東京から徳島まで出て行ってた。また、五十歳に近い左千夫は、ある日若々しい戀愛論を學生と闘はしてゐた。その相手は、後年の文士會田三三氏だつたといふ。

長塚節の手帳の文字は、随分細かく書かれてあつたといふ。蟲眼鏡で見ると、なんと、岡麓先生から承つた鳥木赤彦先生は有名な苦吟家だつた。一首に数年かかつたのがあつた。その歌は、バスケットの中に入つて、信州と東京の間を歩いて、拙い輸入りのもあつた。

歌を作る時、半紙などへ必ず筆で書き、消し、記した。故に、真黒くて、やゝになつた。それを遠目に強の上に置いて、うなむやうにして訂正した。傍らで見ると、息苦しい位だつた。

古泉千鶴先生は、上句を

△九時十分A講演(我限老公)堀切参郎

△九時十分A講演(我限老公)堀切参郎



赤鞘安兵衛

村田月光

お様側には並び切れぬものは、庭前へ進んで見ると、土屋文明、法政大學教授、中村憲吉、山林家、酒席の外から見せ致す内匠頭、其席に入つて見ると、云々

赤鞘安兵衛、安兵衛は、折口信夫(釋道空)慶構のたが、真庭念流の捨て構をと云ふ、安兵衛は大

△十時十分A講演(我限老公)堀切参郎

△十時十分A講演(我限老公)堀切参郎

△十時十分A講演(我限老公)堀切参郎

△十時十分A講演(我限老公)堀切参郎

赤鞘安兵衛 (一四二)

赤鞘安兵衛

村田月光

お様側には並び切れぬものは、庭前へ進んで見ると、土屋文明、法政大學教授、中村憲吉、山林家、酒席の外から見せ致す内匠頭、其席に入つて見ると、云々

赤鞘安兵衛、安兵衛は、折口信夫(釋道空)慶構のたが、真庭念流の捨て構をと云ふ、安兵衛は大

△十時十分A講演(我限老公)堀切参郎

△十時十分A講演(我限老公)堀切参郎

△十時十分A講演(我限老公)堀切参郎

△十時十分A講演(我限老公)堀切参郎



赤鞘安兵衛 (一四二) 村田月光 著

赤鞘安兵衛、安兵衛は、折口信夫(釋道空)慶構のたが、真庭念流の捨て構をと云ふ、安兵衛は大

△十時十分A講演(我限老公)堀切参郎

夜間 専門科 内科 外科 皮膚科 泌尿科 婦人科

第二回長期裁縫講習會 裁縫主トシ希望ニヨリ 作法料理法 編物生花

平陽女學校 簡本校内に寄宿の便あり但し食費一日二十七

時計の御用命は 山崎時計専門店

内臓外科一般 (入院隨意) 平町六丁目(橋際) 木村外科醫院

内科、小児科、婦人科、市原陸太郎

市原醫院 (入院隨時) 電話一四番

西村屋藥店

特賣!!! 花 春 優等賞受領

山崎合名會社 電話一〇番

毛糸! 國産優等毛糸一オンス 十一錢

ハシモトヤ糸店

廣瀬支店 電話五四番

正札堂

市原醫院 (入院隨時) 電話一四番

